

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	エコツーリズム推進事業	会計	一般会計	事業No.	481	施策順No.	13-011	
		事業種別	政策・その他	予算科目	7-1-4-13-2			
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	観光課			
施策	13 地域内産業の多様な連携			事業期間	開始	16	終了	27

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	エコツーリズムを進める地域、団体、人						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	エコツーリズムを進める団体数		6	8	10	12		
対象をどう変えるか	意図	地域の自然、歴史、文化、伝承芸能、地域活動、日々の暮らし等を再認識する。・資産化するために、内外の関係者による多様な連携、協働を進める。・住民主導型の受入れを進めることにより、理解者や担い手を増やす。						目標達成度	
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	A
		新規の来訪者	150	300	400	450	500	500	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	・地元にある地域資源の大切さに気づき、誇りを持つと同時に、交流事業に取り組む人や関心を持つ人が増えてきた。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	環境省からエコツーリズム推進モデル地区(13地区)に指定され、「里地里山の身近な自然、地域の産業や生活文化を活用した取り組み」のモデルとして、平成16年度から18年度まで、事業を実施してきた。学習や取組を進める中で、観光を通じて地域の資源を資産化し、なお且つ地域保全への可能性への認識が広がり、取組を始める地域や個人が増加してきた。この事業が環境保全、経済効果、及び地域活性化等へつながるものとして期待されている。 ○参考:エコツーリズムの効果(環境省HPから)[1]環境保全:地域の自然環境・文化資源に対しては、それらの価値が維持されるよう保全され、または向上する。[2]観光振興:観光業に対しては、新たなニーズに的確に対応し、新たな観光需要を起こすことができる。 [3]地域振興:地域社会に対しては、雇用の確保、経済波及効果、住民が地域に誇りを持つこと等により、地域振興につながる。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 エコツーリズム事業の企画と実施 (1)エコツーリズムを推進するグループの育成支援 (2)交流・滞在プログラムの実施 (3)地域内外のエコツーリズム関係団体や参加者の情報交換会や講演会等 2 エコツーリズムの推進につながる情報発信 (1)エコツーリズムウェブサイト	1 事業の企画実施回数 (1)支援団体数 (2)実施回数 (3)連絡会、講演回数 2 情報発信ツール数 (1)運営管理しているホームページ数	1 (1)10団体 (2)35回 (3)3回 2 (1)1式
23年度実施計画	1 エコツーリズムを推進する地域・団体・人材の発掘、支援や普及 2 エコツーリズムに関する研修会(エコツーリズムカレッジ)の実施(地元学、語り部、コーディネーター、リスクマネジメント) 3 地域ツアーの商品化に向けたアドバイス事業 4 山岳エコツーリズムの育成 ①登山者、観光客等の動向実態基本調査 ②山岳資源保全のためのルール検討会 ③ガイド(案内人)の育成 ④登山案内拠点の機能強化 ⑤登山者ウォーカーへの情報発信	1 推進、支援 2 エコツーリズム研修会の開催 3 地域ツアーの商品化 4 山岳エコツーリズム ① 登山者数計測器設置 ② 踏査と検討会 ③ ガイド(案内人)の育成 ④ 登山案内拠点の管理運営 ⑤ 登山者へのPRちらし作成	1 1式 2 10回 3 1式 4 ① 3ヶ所 ② 2回 ③ 1人 ④ 1人 ⑤ 1回

3 事業コスト

事業費	(千円)		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	特定財源	国庫支出金				
		県支出金			10,129	
		起債				
		その他				
	一般財源		873	775	2,193	
	計(A)		873	775	12,322	
	正規職員所要時間			2,000		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			7,152		
	トータルコスト A+B			7,927		

4 事業に対する市民や議会の意見

・モデル事業の実施により、エコツーリズムを行うことにより、過疎・高齢化がすすむ中山間地にとって、①地域住民が地域の資源に気づき愛着がうまれる ②外から人が訪れることにより、住民に元気が生まれる ③その地域のファンが増え、定住促進効果がある ④経済効果の発生により、地域の持続可能な暮らしに資することが理解されてきた。  
・人と人のつながりや観光、自然や文化歴史などの資源を生かせる観光、住民が地域を誇りに思える観光の推進が提言されている。

**5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】**

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

**6 前期4年間の取組評価(総括)**

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の成果指標又はムトス指標	受入れ可能なプログラム数 連携して取り組んでいる活動数
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	・地域内産業の多様な連携	
	後期に向けた課題	・多様な団体の連携を更に進めていくこと。	
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・エコツーリズムに関心のある団体や担い手の掘り起こしを行った。	
	後期に向けた課題	・各地域や団体で、エコツーリズムの取り組みとしての達成度に差があるので、それぞれの達成度をあげていく。	
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・地元の知識やネットワークをいかして、外部委託等を行わず事業を実施した。	
	後期に向けた課題	・更に地元の知識やネットワークをいかして、地域資源や人材の活用度を進めていく。	
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・自立した活動になるように、市の関与の量に配慮した。	
	後期に向けた課題	・受益者負担が多かった団体等もあるので、事業の進みがよくなるように、状況に応じて市の関与を増やしていく。	
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①多様な主体の種類が増えた。(地域団体だけではなく、起業家や外部団体など) ②意欲ある多様な主体が動きやすいように、情報提供や活動の支援を行った。	
	後期に向けた課題	・多様な主体の連携を進めていく。	
全体を通じて	4年間の振り返り	・エコツーリズムの取り組み方に多様性が現れた。ツアープログラムの企画だけではなく、コーディネート、次世代の担い手確保、起業、ビジネス等を視野に入れた取り組みが始まった。	
	後期に向けた課題	・各地域で進められているエコツーリズムを更に推進するための体制づくり。 ・コーディネーターやガイドの育成。	

**7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認**

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ある	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

**8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画**

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------